# 桐蔭キャリア通信　第14号

*Toin Career News*

和歌山県立桐蔭中学校・桐蔭高等学校　　平成26年11月26日発行


**キャリア教育　ちょこっと研修　その29**

## 『働く目的ー与えるものは与えられるー』

**３．人間性とは、・・・やり方の前に心のあり方ー何のために、目的が大切ー**

アメリカの鉄道会社の社長が現場視察をしたときのことです。現場作業員が近寄ってきました。この社長は10年前には現場作業員として働いていたのですが、近寄ってきたのは、その時の同僚だったのです。その作業員は『10年前はお互い50ドルの日給をもらうために働いていたのにね』といいました。それに対して社長は『私は10年前も今もこの鉄道会社のために、そして世の中の人たちに快適な移動や旅をしてもらうために働いているんだ』と言ったそうです。同じ仕事をしていても、その仕事をする上での目的をどうもつかで、その仕事へのやりがいも、その後の人生も大きく違ってくることについて、比田井先生はお話ししています。

**４．与えようとする心は周りの状況を良くしていく**

上田情報ビジネス専門学校卒業生の長野先輩は、入学当初はよく居眠りをしたり授業をさぼったそうです。そのことで先生にひどく叱られたそうです。長野先輩の偉いところはそこで不貞腐れる（ふてくされる）のではなく、心を入れかえて授業を受けるようになります。そして、転機が訪れます。たまたま同級生が長野先輩にわからないところを質問に来ます。その質問に答えたところ、相手の人はありがとうとお礼を言いました。長野先輩はこのとき、人から頼りにされることのうれしさを感じたそうです。それからは、今まで以上に授業を一生懸命聞き、わからないところは先生に質問をして、理解し、級友の誰からどんな質問をされても答えられるようにしようと一生懸命勉強しました。それ以後専門学校の授業が終わってから夜の8時までの4時間は、級友の勉強の手伝いをすることを毎日続けることになります。長野先輩は、この大変なことも、「頼りにされて、みんなから喜ばれるのがうれしくてうれしくて仕方がなかった」と言ったそうです。そして、長野先輩にびっくりする出来事が訪れます。彼の誕生日に、彼が住まいしているアパートに誕生日のお祝いをするために、部屋に入りきらないほどの級友が訪れ、盛大な誕生パーティーをしてくれました。次の日は長野先輩の家に行けなかった級友が、次々とプレゼントをわたしてくれたそうです。プレゼントの数は両手に抱えきれないほどになりました。長野先輩のクラスは難しい国家試験に合格した生徒の数が、例年の倍以上になったそうです。また、以前はうまくいっていなかった親や兄弟との関係もすごく良くなったそうです。長野先輩の『誰かのために役に立ちたい』という気持ちが、それまでうまくいっていなかったこともすべて良くしていくためのきっかけとなったわけです。誰かのために、自分にできることを与えられる人には、いつかすごくうれしいことを人から与えてもらえるのです。このように比田井先生はお話ししています。

「人財」と呼ばれる人は、高い人間性が備わっているとありましたが、高い人間性をもった人は、与えようとする心(人の役に立とう、人の役に立とう)を持ち、世のため人のために自分にできることを、自分に与えられたフィールドでしている人のことなのでしょう。

（文責　嶋田暢也）